

令和3年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	認定特定非営利活動法人あしづえ	
施 設 名	松江市八雲林間劇場 (しいの実シアター)	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内定額(総額)	7,246	(千円)
公 演 事 業	5,648	(千円)
人 材 養 成 事 業	1,598	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	幼稚園・保育園・幼保園 連携公演	2021年8月10日 ・11日(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	200
		しいの実シアター		実績値	0※
2	新作「ブラボー! ファーブル先生」	2021年10月17日～ 11月28日(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	750
		しいの実シアター		実績値	0※
3	地域連携演劇公演	2021年11月13日・ 2022年3月6日	演目「ゼロ弾きのゴーシュ」 出演：松浦優海、有田美由樹 他 演出：園山土筆	目標値	416
		宇部市民文化会館 他		実績値	370

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	大学連携	2021年4月22日・ 2022年2月～3月	講師：園山土筆、有田美由樹	目標値	のべ700人
		島根県立大学 他		実績値	67人※
2	しいの実シアター未来学校	2021年8月4日 ・5日・6日	講師：田中小百合、園山土筆、有田美由樹	目標値	のべ60人
		しいの実シアター 他		実績値	33人
3	演劇祭アートマネジメント研修	2021年5月～2022年 1月	講師：田中小百合	目標値	のべ70人
		しいの実シアター		実績値	59人
4	コミュニケーションワークショップ	2021年5月～2022年 1月	講師：有田美由樹	目標値	のべ100人
		地域活動支援センター どんぐり館 他		実績値	157人※
5	俳優養成のための短期創造講座	2022年2月5日 (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	のべ40人
		しいの実シアター		実績値	0人※
6	高校演劇部支援事業	2022年3月19日	講師：園山土筆、有田美由樹、木村文香	目標値	のべ90人
		しいの実シアター		実績値	7人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価	
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。	
<b>令和3年度の取り組み</b>	
【公演事業】舞台芸術に無関心だった人たちが、小さな劇場に親しんで、様々な事業に参加できることを目標として、以下の取り組みを企画した。	
演劇を初めて観る子ども達に「また観たい」と思ってもらおう。	幼稚園・保育園・幼保園
演劇を楽しむ子ども達の反応を見た大人に、子どもの育成に文化芸術が必要だと再認識してもらおう。	連携公演／ 地域連携演劇公演
外部のスタッフ、キャストと共に創造活動を行うことで、新たなしいの実シアターの魅力を引き出す。	新作「ブラボー！ ファーブル先生」
【人材養成事業】「共に育ち合う劇場」になるべく以下の取り組みを企画した。	
演劇を活用したワークショップで、地域の人々のコミュニケーション力の向上をはかる。	コミュニケーションワークショップ
子どもや20代の若年層に演劇やしいの実シアターに興味をもってもらおう	大学連携／ しいの実シアター未来学校
ボランティアクルーを生かすシステムをつくる。	演劇祭アートマネジメント研修
俳優や高校演劇部の技術を向上させる。	俳優養成のための短期創造講座／ 高校演劇部支援事業
<b>事業計画の実施</b>	
・公演事業に関し、多くの人が集まる事業は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。影響が弱い野外公演や、感染者数が落ち着いた2022年3月公演は行うことができ、子ども達に演劇をまた観たいと思ってもらうことができた。	
・人材養成事業に関しては感染対策を充分に行い、ほぼ実施でき、目標を達成することができた。	
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。	
【 <b>文化的意義</b> 】 高校演劇部支援事業では、当地の卒業生で俳優をしている木村氏からWebを介して高校演劇部員へのアドバイスがあり、高校生の励みになっていた。	
【 <b>社会的意義</b> 】 しいの実シアター未来学校では、子ども達は夢中で劇づくりを行っており、その姿を見た家族が、文化芸術が子どもの成長に重要だと感じていた。	
【 <b>経済的意義</b> 】 コロナ禍で外出が憚れる中、地域連携演劇公演の野外公演では、予想より多くの観客が集まり、駐車場係りがてんこ舞いをした程だった。換気が充分であれば、文化芸術活動に参加したい市民が多いことが分かった。	

## (2) 有効性

自己評価	
目標を達成したか。	
アウトリーチ公演でしいの実シアターへの興味・関心をもってもらおう。	地域連携演劇公演「宇部市文化会館」では、地元の演劇関係者数名が観劇後、片付けまで自主的に手伝ってくれたが、公演を楽しんでくれたからだと思われる。また、コロナ禍で十分な稽古ができなかったこともあり、計4回通し稽古を行ったが、会館のスタッフは興味深そうに質問をしながら熱心に立ち会ってくれていた。
演劇を初めて観る子どもたちに「また観たい」と思ってもらおう。	地域連携演劇公演「宇部市文化会館」では、アンケートでも全員が「また観たい」と回答していたが、観劇中も目を輝かせて見ていた。特にゴーシュの演奏シーンには驚いていた。
外部のスタッフ、キャストと共に創造活動を行うことで、新たなしいの実シアターの魅力を引き出す。	地域連携演劇公演「宇部市文化会館」は、新しいスタッフ（照明と音響）での公演であったが、初参加だからこそ、「なぜ、そうするのか」を素直に質問するため、スタッフとキャスト全員が共通理解の上で仕込みを進めることができ、予定の2時間以上早く仕込みを終えることができた。また、仕込み時の共通理解が上演時にも役立ち、上演200回目にして一番、心を一つに協力できた素晴らしい公演になった。
演劇を楽しむ子どもたちの反応を見た大人に、子どもの育成に文化芸術が必要だと再認識してもらおう。	地域連携演劇公演「宇部市文化会館」では、宇部市の子どもたちは、松江市の子どもたちよりも反応がよく、楽しんでいる様子がよく伝わった。コロナ禍で、来場者も少なかったが、生の舞台を全身で楽しんでいる子どもたちの様子が、客席を沸かせていた。地元連携団体も、こんなに子どもたちが集まるとは思わなかったと驚いていた。
演劇を活用したワークショップで、コミュニケーション力の向上をはかる。	初対面の参加者や、あまり話したことの少ない参加者同士が、ワークショップを体験することで気軽に会話できる雰囲気になり、その後の活動でも一体感が見られた。
しいの実シアターや演劇に興味をもつ20代の若者層を増やす。	インターンシップでは、しいの実シアターの強み、弱みを分析し、参加者から今後の広報について提案を受けた。
子どもたちが演劇を楽しむ。	「楽しくて知らないうちに頑張っていた」との声がきかれるなど、子どもたちが劇づくりに夢中になっていた。
	講師の話聞いたことで演劇への興味が増し、参加者から「しいの実シアターに行きます」との声が上がった。
ボランティアクルーを生かすシステムを構築する。	回数を重ね、じっくりと話し合う時間をもつことができたため、改善を積み重ねながら納得できる組織図や登録方法をつくることができた。
高校演劇部の技術を向上させる。	オンライン開催となったが、講師の話の後、顧問の先生も驚くほどたくさん質問が寄せられ、積極的な姿が見られた。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演1：幼稚園・保育園・幼保園連携公演】 要望時は6月公演だったため、4月までに周知し、参加園も決まり、適切なアウトプットができていた。しかし、4月当時の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、申請時に8月実施に変更した。その後、公演予定日の一週間前に自治体からの中止依頼が入り、中止せざるを得なかった。

【公演2：新作「ブラボー！ ファーブル先生」】 出演者の全国募集とオーディションを実施してキャストを決定。4月に4日間稽古を行ったが、その後の稽古は緊急事態宣言発令中のため実施できなかった。公演延期を検討したが、令和3年度中の実施は不可能と判断し、8月に事業中止を決定した。

【公演3：地域連携演劇公演】 要望時は全3回の室内公演であった。その後、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、一部を野外公演として全4回の公演を実施した。

【人材養成1：大学連携】 要望時は4月から全29回の実施だった。2月に連携の島根県立大学から相談があり、新型コロナウイルス感染症の影響で実施回数を大幅に減少させることになった。

【人材養成2：しいの実シアター未来学校】 当初の予定通り8月に実施した。周知が行き届き、定員を超えた申し込みがあった。

【人材養成3：演劇祭アートマネジメント研修】 当初の予定通り実施することができた。

【人材養成4：コミュニケーションワークショップ】 要望時は全4回実施にしていたが、地域からの依頼があり、4月の申請時に全8回に変更した。

【人材養成5：俳優養成のための短期創造講座】 令和2年度から延期し、令和3年2月実施で周知し、参加者も決まっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で1月に中止を決定した。

【人材養成6：高校演劇部支援事業】 新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催に変更して実施した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演1：幼稚園・保育園・幼保園連携公演】 周知をした後、公演1ヶ月前に中止になったため、チラシの印刷費と送料、出演者へのキャンセル料等を支払った。上演料や交通費等の支払いが無かったため、当初計画より事業費が減額となった。

【公演2：新作「ブラボー！ ファーブル先生」】 稽古を始め、衣裳を発注してから中止が決定したため、各所へのキャンセル料と交通費等を支払った。契約金額の支払いや舞台費等の支払いがまだ発生していなかったため、当初計画より事業費が減額となった。

【公演3：地域連携演劇公演】 室内公演の一部を野外公演に変更したものの、事業費はほぼ当初計画の通り進めることができた。

【人材養成1：大学連携】 回数減の分謝金が減り、当初計画より事業費が減額となった。

【人材養成4：コミュニケーションワークショップ】 当初計画の4回から8回に変更したため謝金支出が増え、当初計画より事業費が増額となった。

【人材養成5：俳優養成のための短期創造講座】 講師へのキャンセル料は支払ったが、謝金や交通費を支払っていないため、当初計画より事業費が減額となった。

【人材養成6：高校演劇部支援事業】 オンライン開催に変更したため交通費の支払いがなく、当初計画より事業費が減額となった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### **【公演1：幼稚園・保育園・幼保園連携公演】**

当地では、一般の未就学児を対象に行う演劇公演はない。おやこ劇場が会員向けの例会は行っているが、これは観劇体験の豊富な家族で参加する公演である。実施されない理由としては、未就学児を対象とすることで、客席がざわざわしたり、開演前のトイレの対応に配慮が必要となったりするからだと思われる。当館では、未就学児向けの演劇公演を平成13年度から毎年継続して21年間実施している経験から、毎年約200人の未就学児を幼稚園・保育園と連携しながら安全に観劇させている。

#### **【公演2：新作「ブラボー！ ファーブル先生」】**

専属劇団が中心となり、地元である山陰、福岡、東京から、スタッフや出演者を集め、当地で作品創造を行った。当地では、県外の出演者が地元の出演者に指導をするのではなく、両者が対等に創作活動をする機会は今までなかったため、注目をあびていた事業であった。地元の演劇人も多く参加していたため、実施できていたら当地の演劇作品の質の向上につながったと思われる。

新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度の実施はできなかったが、令和5～6年度に向けて、再度挑戦する予定である。

#### **【公演3：地域連携演劇公演】**

新型コロナウイルス感染症の影響で、演劇の上演が難しかったため、急遽、予定していた公演の一部を野外上演に切り替えて実施した。当地では、劇場公演用に創った演劇作品を野外公演に演出を変えて行う取り組みはなかったため、コロナ禍での演劇上演の可能性の一つを提示できた。

#### **【人材養成2：しいの実シアター未来学校】**

希望して集まった小学生と演劇を使った創造活動を行った。当地での子ども向けの演劇活動は、大人が決めたプログラムに沿って子ども達が活動するが、本事業では、3日間のプログラムを集まった子ども自身が考え、最終日に発表する形をとった。これは、平成21年度から13年間継続して小中学校に出向き、子どものためのコミュニケーションワークショップを行っている経験から、現代の子ども達の「正解を求める傾向」を打破し、ゼロからオリジナルの作品を創る機会が必要と判断して行った。結果、子どもたちは大人の予想以上の能力を発揮し、発表会を行うことができた。

#### **【人材養成4：コミュニケーションワークショップ】**

福祉や医療、地域の団体との連携でワークショップを行った。当館は、演劇が日常生活に浸透することを目指して活動しており、様々な機会を通して、他分野の団体と連携をとってきた。その為、他団体から相談を受けることも多く、その流れで、他団体の課題に対し演劇を使って解決するためのワークショップを行っている。実施後も振り返りを行うことで、より依頼者のニーズに即した内容に改善され、継続して毎年依頼が途切れることがない。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### **【公演3：地域連携演劇公演】**

山口県宇部市公演では、家族連れでの来場者も多く、「演劇公演にこんなに子どもが来るのは珍しい」と連携団体が驚いていた。観客アンケートの感想も好評で、子ども達が「また演劇がみたい」「また来てほしい」と書いていた。中国地方で連携して演劇公演を開催することは珍しく、今回の成功を受け、今後の連携の可能性が高まった。

また、野外公演では、山間部に位置し、日没間近は真っ暗になる当館の特徴を生かし、焚き火を行った。換気のいい野外で距離をとることのできる野外公演のため、100人程度の集客を見越していたが、実際は300人もの来場となった。居心地が良かったのか、来場者は焚き火の前で長時間座っていた。

### **【人材養成1：大学連携】**

島根大学国際センター、東洋大学留学生支援センターとの連携で、東洋大学の留学生4名のインターンシップをZoom会議で行った。参加者の1名とはその後も連絡を取り合い、令和4年5月には実際に当劇場で顔をあわせ、国際的な広報展開について話し合った。両大学からも、インターンシップ期間に留まらず、実際の業務に大学生を携わらせてことへの感謝をいただいた。

### **【人材養成2：しいの実シアター未来学校】**

参加した子どもたちを送り迎えする保護者から、「発表会前は帰るなり紙と鉛筆を出して、台詞と衣装のことを一生懸命考えているようだった。そんな姿を見るのは初めてで、夢中で遊ぶってこういうことかなと貴重な経験をした」「申し込んだ時は不安そうだったが、1日目に迎えに行ったら既に目が輝いていて、翌日が待ち遠しい様子で、家庭でも急に自主性が見られ、変化に驚いた」「全員に役があり台詞を喋るのだと思っていたが、我が子は衣装係。台詞がなくて良かったのかとびっくりしたが、本人は張り切っていた。照明係や小道具係など役者以外にも活躍する子どもがたくさんいて、娘も立派に役割を果たしていた」と子ども達の今まで見た事のない姿への驚きの声が多く寄せられた。

子ども達からも「がんばったというより、楽しくて、しらないうちががんばってた」「みんなで考えて意見を言い合ったのが楽しかった」「意見を本番に採用されたりするのがうれしかった」といつも以上の能力を発揮していた様子が分かった。係わったスタッフも「子ども達の創造力の深さや幅広さに感動し、夢のような3日間だった」と言っていた。結果、参加者からは、もっと頻繁に毎週の様子に実施して欲しいと要望があがった。

また、政策研究大学院大学からは、国際シンポジウム「劇場の未来を考える2021」での事例発表を依頼され、発表したところ、アドバイザーや大学のスタッフまで感動したと感想を口にした。

### **【人材養成4：コミュニケーションワークショップ】**

連携先の団体からは、「期待以上の成果があり、毎回、助かっている」と言われている。それぞれの対象者は、在宅母子（乳幼児）、中学生、助産師、保育士、高齢者と幅が広いが、課題は総じて「初対面の緊張」「失敗しないように固くなる」「自らの意見は言う経験が少なくと言えない」などである。演劇の力を活用したワークショップでは、このような縛りを解消して自分本来の姿を出せる作用があり、課題解決に結びついている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 事業運営

【人材養成 3：演劇祭アートマネジメント研修】においては、前年度以前に聞き取ったボランティアスタッフが感じている課題を解決するための組織づくりや募集方法、必要資料を作成した。現在は、劇場設立当初に支援して下さったボランティアスタッフは引退し、次の世代に入れ替わっている。時代と共に、ボランティアスタッフの活動に対する期待も、地域づくりから自己実現や社会貢献に変わって来た。ボランティアスタッフに対して繊細にヒアリングをする中で、事業への理解も促し、ボランティアスタッフも充実感をもち、かつ事業の目的も達成するための枠組みを創った。令和4年度に演劇祭を実施し、その後、またボランティアスタッフとの振り返りを行って改善していく。

#### 経営戦略

賛助会員や寄付者には、当館の取り組みを紹介した機関紙を発行し、情報提供を行っている。行った事業を均等に報告するのではなく、「教育」「地域活動」など、支援者が共感できる事業を選択し、成果を分かりやすく、外部評価も交えて伝えている。

#### 人事戦略

大学との連携や地域活動等を通じて、外部の有識者の活用を進めている。これにより、舞台スタッフや翻訳・通訳スタッフ、パフォーマーなどの専門人材を外部委託スタッフとして雇用することができている。劇場運営を共に行う中で、結果として常勤職員として登用できることを期待している。

#### ネットワーク構築

【公演 1：幼稚園・保育園・幼保園連携公演】においては、地域の幼稚園・保育園と連携し、毎年10施設程度の参加が継続されている。例年、申込時に団体観劇の課題などを聞き取り、園が問題なく観劇できるよう改善し、信頼関係を構築している。

【人材養成 4：コミュニケーションワークショップ】においては、他分野である福祉や教育、医療団体と連携し、演劇を活用した団体の課題解決を行っている。信頼関係が築けている為、赤裸々に団体の悩みを打ち明けられている。平成21年から継続して行っている経験により、他団体の課題解決の支援をすることができている。

また、1999年から行っている国際演劇祭の運営上のネットワークから、国際的に良質な作品の情報交換を常に行っている。特に今のコロナ禍においては、海外劇団を招へいするため、新たな手続きが必要となっているため、外務省や新国立劇場演劇研修所、りっかりっか\*フェスタなど今迄連携していた団体と情報交換をし、事業を進めている。

最後に、政策大学院大学との連携では、共に国際フォーラムを主催し、国際演劇祭の効果的なアンケート集計についても取り組んでもらっている。これにより、公平な外部評価を得て、事業の成果を可視化することができる。